

Eight Sequences for St.Benedict and St.Scholastica

Plainsong & Medieval Music Society 1980(MC6/S479)

これは聖ベネディクト生誕 1500 年を記念してベネディクト会司祭 A.Morris 師の協力によって編纂された、聖ベネディクトとその妹、聖スコラスティカへのセクエンツィア集であり、1980 年にイギリスの中世音楽協会から出版されている。

出典となった写本は Montecassino, Archivo 546/Orleans, Biblioteque Municipale129 の二つ (いずれも 12~3 世紀)。後者のオルレアン写本はベネディクトの遺体の一部が運ばれたフランスのフルーリを起源としている。オルレアン写本は 3 月 21 日のベネディクトの祝日だけが朱色で書かれており、それ以外は遺体のフリールへの移送の日とされている 7 月 11 日のためのものである。

内容は以下の通り (M=Montecassino, O=Orleans)

- 1.Qui benedici cupit(M)
- 2.Sancti merita Benedecti(M & O)
- 3.Laudem carmina Benedicto(O)
- 4.Benedicte merita(M)
- 5.Est invicti Benedicto(O)
- 6.Laudis vox et organi(O)
- 7.Sit in donis Benedictus(O)
- 8.Alma contio Concrepat(O)

スコラスティカへのセクエンツィアがモダン・エディションで見られるというのは珍しい例だと思うが、私が見た限りでは 8 曲目の *Alma contio Concreat* が聖女に言及している。“美しいハーモニーで共に祝い讃え歌おう、聖なるスコラスティカが天へ昇ったこの祝日を”と歌いだし、彼女の祈りによって雷雨になり、兄ベネディクトと共に一晩語り明かすことができたという有名なエピソードが 9 節まで歌われる。

このエディションは五線譜のトランスクリプションに、ラテン語歌詞の英訳が付されている。写本からの解説はイギリスの音楽学者 David Hiley が行い、翻訳を Morris 師が担当している。上記の中世音楽協会はこの Hiley 氏が事務局を勤め、*Journal or the plainsong & Medieval music Society* を刊行している。

これらの写本に残るセクエンツィアは現在の典礼ではもはや歌われることはないが、その時代の聖人崇敬から生まれたキリスト教音楽として、霊性史のなかにおいて音楽をみていくうえで興味深いと思われる。